

■開催概要

- シリーズ名称 : 2021 鈴鹿クラブマンレースRound5
- 主催 : オムニバスクラブオブカンサイ (OCCK)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力 : KRHC、チーム淀、ARC、AASC、ARCN
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2021-3003
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数/92台
CS2/10台
クラブマンスポーツ/25台
FFチャレンジ/19台
スーパーFJ/27台
ポルシェ カレラカップ ジャパン/11台
- 開催日 : 2021年9月11日(土)・12日(日)
- 天候 : 雨のち曇り/11日(土)、雨/12日(日)
- 路面 : ドライ/11日(土)、ウェット/12日(日)



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2021/clubman/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2021 鈴鹿クラブマンレースRound 6
- 開催日 : 2021年11月27日(土)・28日(日)
- 主催 : オートスポーツクラブアツタ (AASC)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催クラス : フォーミュラEnjoy(2レース制)、FFチャレンジ、FIT1.5Challenge Cup、Vitz TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup



暑さがやわらいだ晩夏らしい天候のもとで開催された今回の鈴鹿クラブマンレース第5戦。各カテゴリーの公式予選では激しいタイムアタック合戦が披露された

世界最高峰のワンメイクレースも併催! 涼しい天候のもとで熱いバトルが披露された第5戦

過酷な夏の暑さのもとで行われた第4戦から1.5ヶ月が経過した9月11日(土)と12日(日)の2日間にわたり、鈴鹿クラブマンレース Round 5が開催されました。

入場ゲートにて検温が実施され、入場が限定された場内ではマスクの着用やソーシャルディスタンスの確保が徹底されるなど、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて開催されたこのレースでは、クラブマンスポーツに25台、FFチャレンジに19台、スーパーFJに27台など、多くの参戦台数が集まりました。また、全国のサーキットを転戦してシリーズチャンピオンが争われているポルシェ911GT3 Cupによるワンメイクレース「ポルシェ カレラカップ ジャパン」が併催されたのも今回のトピックでした。

今シーズンの鈴鹿クラブマンレースはフルコースを舞台に行われており、また、開幕戦を除く全戦が土曜日に各カテゴリーの公式予選が行われ、翌日曜日に決勝レースが開催される2DAY大会として開催されていることもあり、従来以上に激しいバトルが披露されています。今回の公式予選では「ポルシェ カレラカップ ジャパン」の3クラス全てでコースレコードが塗り替えられました。また、FLYING RATと松本吉章が激しい2位争いを披露したCS2、徳升広平と大八木龍一郎がトップ争いを展開したクラブマンスポーツなど、決勝レースでもひと時も目が離せない戦いが繰り広げられました。

今回はフォーミュラEnjoyのレースが開催される第6戦。「安全でローコスト」をコンセプトとするこのフォーミュラカテゴリーのレースが2レース制によって行われるこの第6戦にも是非注目してください。



世界規模で行われているワンメイクレースの「ポルシェ カレラカップ ジャパン」。2レース分のグリッドが1回の公式予選で決まるため、最後まで集中力を切らすことのできない予選となったようだ

■CS2 Class

ポールポジションスタートのいむらせいじが良いクラッチミートを披露するが、2番グリッドスタートの松本吉章と横並びの状態に。いむらがホールショットを奪う。そのいむらがオープニングラップから後続を引き離しにかかる。いむら、松本、5番グリッドスタートのFLYING RATのオーダーでオープニングラップを終了。松本とFLYING RATがテールtoノーズの状態です。何度か松本の横に並びかけたFLYING RATは3周目の130R進入でこれをパス。しかし、FLYING RATは4周目のシケインでコースアウトする。その後も後続を引き離し続けたいむらが7秒830ものアドバンテージを築いてトップチェッカー。2位はファステストラップを更新ながら走行したFLYING RAT。松本が3位表彰台に立った。



いむらせいじが3戦連続でポールポジションを獲得。そのいむらとポイントリーダーの松本吉章がフロントローからスタートする



いむら(写真中央)が第3戦、第4戦に続いてポールtoウィン。FLYING RAT(写真左)が2位、松本(写真右)が3位。これにより、いむらがポイントリーダーとなった

■クラブマンスポーツ/FCR-VITA Class

ポールポジションスタートの徳升広平、2番グリッドスタートの大八木龍一郎、4番グリッドスタートの猪爪杏奈のオーダーで1コーナーへ。徳升はスプーンカーブでコースアウトするが、すぐにコースに復帰。大八木も130Rでオーバーラン。徳升、大八木、猪爪と続いてオープニングラップを帰ってくる。徳升と大八木は単独トップ、単独2位に。そこから若干離れ、猪爪を先頭とする3位グループが走行する。3周目のスプーンカーブで猪爪がオーバーラン。これにより中里紀夫が3位に。3周目にファステストラップをマークした大八木が徳升のテールを捉える。6周目の1コーナー進入で大八木が徳升をパス。同じ週のダンロップコーナーでトップの座を奪い返した徳升がポールtoウィンで2連勝を飾った。



今シーズン最後のレースとなったこのカテゴリーでは前戦で優勝を飾った徳升広平がポールポジションを獲得。その徳升とチャンピオンを決めている大八木龍一郎が争う展開に



一時的に単独トップとなった徳升(写真中央)の背後に大八木(写真左)が接近。バトルの末に徳升がトップチェッカーを受けた

■スーパーFJ Class

ポールポジションスタートの岡本大地が良いクラッチミートを披露するが、2番グリッドスタートの佐藤巧望がその横に並び、ホールショットを奪う。佐藤と岡本はS字コーナーでサイドbyサイドの状態になると、ダンロップコーナーで岡本が佐藤をパス。岡本、佐藤、4番グリッドスタートの上野大哲のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。上野と5番グリッドスタートの富田自然がテールtoノーズのバトルを展開。上野をパスした富田は佐藤をもパスして2位に浮上する。富田はさらに単独トップとなっていた岡本にも接近。テールtoノーズの状態になると、富田が8周目にトップに立つ。次第に岡本を引き離すことに成功した富田がこのクラス初優勝。2位は岡本。佐藤が3位でチェッカーを受けた。



他のレース参戦のため、前回大会を欠席した岡本大地がドライ路面の公式予選でトップタイムをマーク。ウェット路面での決勝レースでも一時的に単独トップの座を築く走りを披露



開幕戦、第2戦、第3戦のレース2で優勝を飾っている岡本(写真左)が2位でチェッカーを受け、2年連続のシリーズチャンピオンを決めた

■FFチャレンジClass

関直之と伊藤昌弥の2台のみが正規のグリッドにつき、残りはピットスタートに。関と伊藤に続き、17台がピット出口からスタートしていく。関は伊藤に3秒162のアドバンテージを築いてオープングラップを終了。伊藤から22秒152遅れ、林大輔、貴島康博、辰己公明、神原聖一と続いてオープングラップを帰ってくる。シケインでクラッシュしたマシンがあったことにより、セーフティカーがコースへ。これにより、関、伊藤に貴島以降が追いつく。リスタートすると、関と伊藤はそれぞれ単独状態に。貴島、林、神原らが3位グループを形成する。結局、関が伊藤以降に1秒492のアドバンテージを築いてトップチェッカー。2位は伊藤。最後まで続いたバトルを制した木村翔が3位入賞を果たした。



ピットロードのオープン時間内にコースインしたのはなんと2台のみ。それ以外の17台がピットスタートという前代未聞の展開となった



スタートで混乱があったことに加え、途中でセーフティカーがコースに入るなど、大荒れの展開となったこのカテゴリーの決勝レース。関直之(写真中央)が優勝を飾った

■ポルシェ カレラカップ ジャパン

日本で開催されているワンメイクレースの中でもっとも長い歴史を誇るのがこの「ポルシェ カレラカップ ジャパン」。今シーズンからプロ、プロアマ、アマによる3クラス制が導入され、それぞれのクラスで熾烈なチャンピオン争いが展開されている。Rd.9とRd.10の2レースが行われた今回も栄光を掛けた激しい戦いが披露された。



9月11日(土)に行われたRd.9ではポールポジションからスタートした上村優太が総合優勝を飾ると同時にプロクラスのウィナーに。内山清士がプロアマクラスを、Masa TAGAがアマクラスを制した



ウェット路面での戦いとなった翌11日(土)のRd.10。近藤翼が独走状態を築いて総合優勝を飾り、プロクラスも制する結果に、その他のクラス別ウィナーはプロアマが内山清士、アマがMasa TAGAだった

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

CS2 Classで2位に入賞

FLYING RAT 選手 (WEST RACING CARS)



Q: このカテゴリーへの参戦は今回が今シーズン初でした。どんな公式予選でしたか。

「狙っていたように走ることができ、トップタイムをマークできたので走り自体には満足しています。ただ、ピットレインのスピード違反という初歩的なミスをして4グリッド降格。そこが残念でした」

Q: 3周目の130R進入で松本吉章選手をパスして2位に浮上しましたね。

「行けるところではどこでも行こうと考えていました。2位になり、トップのいむらせいじ選手に追いつこうと考えていたところ、次の周のシケインでオーバーラン。気持ちが一瞬空回りしてしまいました」

Q: 2位のままでチェッカーを受けましたね。次戦もこのカテゴリーを走る予定ですか。

「予定が合えばこのカテゴリーにエントリーしたいと考えています。いむら選手が3連勝を飾っているのでも、参戦できたら4戦連続優勝を阻止したいです」